

児童生徒が考えたくなる楽しい道徳授業づくりを目指して —ゴールイメージ（評価）から考える授業づくり—

姫路市立総合教育センター

道徳科研究班

姫路市立大塩小学校 梅田 泉

姫路市立網干小学校 中水 薫

姫路市立四郷学院 田中 理恵

姫路市立山陽中学校 河野 雄司

姫路市立灘中学校 毛利 哲也

姫路市立大津中学校 高山 道子

<キーワード>

ゴールイメージ 補助発問 新しい気付き 発見 納得感 考えたくなる 発達段階

<要約>

道徳が教科化となり、発達段階に応じて答えが一つではない道徳的課題を児童生徒の一人一人が自分自身の問題として捉える『『考え、議論する道徳』への転換』が必要である。しかし、多くの教師がどのように道徳の授業づくりをすればよいのかと悩み、また児童生徒も、もうすでに知っていることを発表したり書いたりする道徳の授業はつまらないと感じている。

『考え、議論する道徳』を実現するためには、考えたくなる発問や議論したくなる課題がなければならないが、内容項目ごとの発達段階を踏まえたり、学級の児童生徒全員にしっかり考えさせたりすることはなかなか容易ではない。

そこで、児童生徒が、道徳的課題についてじっくり考え、学級の仲間と話し合うことで、価値への新しい気付きや学びのある時間にすれば、道徳の授業はもっと楽しく深い学びのある充実した時間になると考え、研究に取り組んだ。

1 研究テーマ設定の理由

平成 30 年度の学習指導要領の改訂により、「道徳の時間」は「特別の教科 道徳」と位置付けられた。発達段階に応じて、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題として捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」への転換を図る必要があるとされた。

教科となった背景には、将来出会うであろう様々な課題に対して、多様な価値観を持った他者と協力し、納得解を見つけ、課題を解決していかなければならないような面もあるからではないかと考えた。

しかし、現実には、多くの教師が「議論する道徳」と提唱されてもどのように授業展開を考えればいいのか、児童生徒に自分を見つめ、深く考えさせるにはどのような発問が適しているかなど、迷い悩んでいるのではないだろうか。

また、児童生徒も、すでに知っていることを言わされたり書かされたり、今後の生活での決意表明をするような道徳の授業はつまらないと感じているのではないだろうか。

考え、議論するためには、考えたいくなる発問や議論したくなる課題がなければならない。しかし、内容項目ごとの発達段階を踏まえたり、学級の児童生徒全員にしっかり考えさせたりすることはなかなか容易ではない。

児童生徒が道徳的な課題について「うーん。なぜだろう。」「どういう考えをもてば〇〇できるのだろう。」と考え、学級の仲間とともに話し合うことで、「そうか。なるほど。」「へえ。今までの自分にはそんな考えはなかったなあ。」などと新しい気づきや学びのある時間になる。そうすれば道徳の授業は、児童生徒だけでなく、教師にとっても、もっと楽しく、深い学びのある充実

した時間になるだろう。

以上のことから本研究班は、「児童生徒が自ら進んで考えたいくなる楽しい道徳授業づくり」を研究テーマとして設定した。

2 研究の概要

まず、どのような道徳授業が児童生徒にとって考えたいくなる学びのある楽しい授業といえるのかについて考えた。その際、本市の様々な学校での道徳校内研修や他市、他県の道徳研究会への参加、優れた道徳授業の参観、講演会を傾聴する中で、次の3点が大切であると学んだ。

- ① 1時間の授業の中で、児童生徒にどんな学びをさせたいのかという具体的なゴールイメージをもって授業づくりをすすめること。
- ② 発達段階に応じた内容項目を明らかにすること。
- ③ 中心発問を深めるには、有効な補助発問が肝要であること。

その3点を生かして、まず教師が児童生徒にどんな学びをさせたいのかという具体的なゴールイメージを考え、そのゴールにたどり着くような発問の構成を考えて授業実践を行った。

そして、前記の①～③を満たした授業づくりに誰でも簡単に組み入れるよう、【授業づくりシート】を作成し、それを活用した授業づくりを行い、実践結果を検証することで児童生徒にとって考えたいくなる学びのある「楽しい道徳の授業づくり」ができるのではと考え、研究を進めた。

3 研究の内容

(1)楽しい授業とは

「楽しい授業」と一口に言っても、楽しさは人によって違う。そこで、本

研究を進めるに当たって「何をもって楽しい授業とするのか」について話し合い、目指すべき「楽しい授業」の定義を次のように設定した。

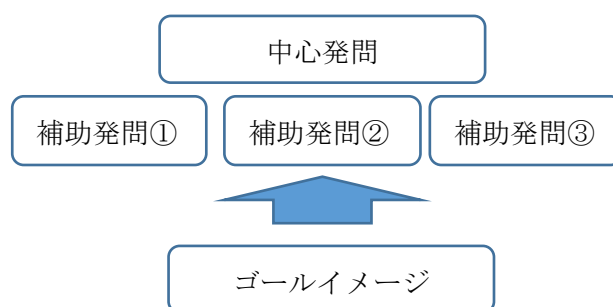
- 児童生徒が、自分との関わりで多面的・多角的に考えている。
- 児童生徒が、焦点化した話し合いを行っている。
- 児童生徒に「そうか。なるほどなあ。」「へえ。今までの自分にはそんな考えはなかったなあ。」など、新しい気づきや納得感がある。

(2) 楽しい授業の実現に向けた仮説

本研究における「ゴールイメージ」とは、1時間の道徳授業を通して児童生徒に期待する姿である。それは、「価値に対する思い」や「自分自身への振り返り」などである。具体的には、授業の終末での発言や道徳ノート、ワークシートに書いて欲しい言葉を、児童生徒の言葉で教師自身が考えておくことである。道徳ノートやワークシートに書いていることが、児童生徒が教材を一読すれば分かることや、すでに知っていることであるなら、授業のねらいが内容項目の発達段階に合っていないことが考えられる。すでに知っていることがゴールになっているのは、児童生徒の「考えたい」「友達の意見を聞きたい」という意欲は湧かない。もちろん「新しい発見」もないであろう。

また、ゴールイメージは、発達段階に応じた内容項目をきちんと捉えた価値観を基にしたものでなければならない。『今まで自分は〇〇だったな。』など、「自分自身への振り返り」に関してもゴールイメージをもっておくことで、児童生徒が自分自身との関わりで考え、多面的・多角的に物事を見たり考えた

りできる授業づくりにつながると考えた。そして、ゴールイメージからフィードバックして考える授業づくりによって、ぶれない一貫性のある楽しい授業ができるのではないかと考えた。



(3) ゴールイメージから考えた授業実践

小学校3年

「まどガラスと魚」 A 正直、誠実

(あらすじ)

千一郎が投げたボールが、窓ガラスを割ってしまった。後日、窓ガラスには「ガラスをわったのはだれだ？」と書かれた紙が貼られた。素直に謝りにいくかどうかを葛藤しているときに、ある猫が千一郎の家の魚をとって逃げてしまう。猫の関係者であると思われるお姉さんが千一郎の家に謝りにやってきた。その後、千一郎は、ガラスを割ってしまった家の主人に謝りにいく。

《本授業のゴールイメージ》

「価値に対する思い」

- ・正直に言えない自分はずるいからいやだ。

「自分自身への振り返り」

- ・今までは、おこられるのがいやで正直にできない時もあったけど、それは正直でいたいという心が、おこられたくない弱い心に負けていたんだな。

《授業の実際》

授業中の発言や道徳ノートからは、

- ・あじににらまれているように思ったのは、もやもやしているから。
- ・千一郎は「お姉さんは謝ったのに、自分は何をしているんだろうと
思っている。」
- ・もやもやした気持ちをすっきりさせるために正直に言うほうが
いい。
- ・弱い心に負けずに正直に言うこ
とが大切。

という意見が主であり、ゴールイメ
ージであった「正直にできないずる
い自分が嫌で正直に言えた。」という
内容には至らなかった。ゴールイメ
ージにつながる補助発問に課題があら
うと感じた。

＜授業づくりシート＞（H30 道徳研究班試案）

お姉さん (お姉)	まどカラスと鳥 (カラス)	生徒・ (児童)	自分の心に正直に A 正直、誠実
お姉さん の 心 を 表 す の こ と	お姉さん の 心 を 表 す の こ と	お姉さん の 心 を 表 す の こ と	お姉さん の 心 を 表 す の こ と
お姉さん の 心 を 表 す の こ と	お姉さん の 心 を 表 す の こ と	お姉さん の 心 を 表 す の こ と	お姉さん の 心 を 表 す の こ と
お姉さん の 心 を 表 す の こ と	お姉さん の 心 を 表 す の こ と	お姉さん の 心 を 表 す の こ と	お姉さん の 心 を 表 す の こ と
お姉さん の 心 を 表 す の こ と	お姉さん の 心 を 表 す の こ と	お姉さん の 心 を 表 す の こ と	お姉さん の 心 を 表 す の こ と

基本発問（導入・展開・結末） （前編の設問は教材による）	予想される児童生徒の反応
お姉さんで遊んでいて、よその家の窓を割ってしまいました。どうしますか。	・おこられたらいやだから逃げる。 ・正直に謝る。 ・後で謝れたらもっとおこられるから謝る。 ・わからない。
お姉さん、千一郎は窓を割ったカラスを見に帰るつもりで、どうしますか。	・どうしよう。正直に言おうかな。 ・窓の人はおこっているんだ。 ・お姉さん、千一郎は窓を割ったカラスを見に帰るつもりで、どうしますか。
お姉さん、千一郎は窓を割ったカラスを見に帰るつもりで、どうしますか。	・どうしよう。正直に言おうかな。 ・窓の人はおこっているんだ。 ・お姉さん、千一郎は窓を割ったカラスを見に帰るつもりで、どうしますか。
お姉さん、千一郎は窓を割ったカラスを見に帰るつもりで、どうしますか。	・どうしよう。正直に言おうかな。 ・窓の人はおこっているんだ。 ・お姉さん、千一郎は窓を割ったカラスを見に帰るつもりで、どうしますか。

(4)授業づくりシートの作成

前述の授業実践の際にも授業づくりシートを作成したが、書く欄が多く、日々の授業づくりにおいて毎回これを作成することは大変困難である。そこで、普段の授業において、できるだけ時間をかけず、ポイントを押さえた授業づくりをするためのシート【授業づくりシート】を作成した。(図1)

このシートは、シート内の番号順に記入すると、発達段階を踏まえたねらいを基にそのねらいに迫るゴールイメージを描き、フィードバックして補助発問を考えられるように作った。これまでの中心発問を考える授業づくりとは違い、教科書の教材文の最後に記載されている「考えてみよう」という問いを中心発問とし、それを深めるための有効な補助発問を考えられるように作った。

この「授業づくりシート」づくりにおいて工夫したことは4点ある。

① 発達に応じた明確なねらい

児童生徒が、授業を通して新たな気付きや納得感を得るには、発達段階に応じて、どこまでをねらいとしているのかを明確にすることが、不可欠である。そのためには、「学習指導要領解説 第3章 道徳科編」を適切に読み込まなければならない。

授業者が、授業のねらいをより適切にはっきりと設定するためには、そのねらいを児童生徒の立場による言葉で表現した方が、分かりやすくなるのではないかという結論に至った。

そこで、子ども（児童生徒）から見た内容の観点の一覧表を作成した。(図2)

子どもにも分かる表現で、心のノートや研修会での講義の内容を参考に、できるだけイメージをもちやすいようにすることを第一に考えた。

(図1：授業づくりシート1.0)

学習指導要領解説の指導の観点(子どもから見た内容の観点)					
A 主として自分自身に関すること(自分の弱さに負けない、こういう自分でありたい。)					
	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校	
善悪の判断、自律、自由と責任	よいことと悪いことの区別をしよう。よいと思うことを進んで行おう。	よいことをするんだもの、自信をもって行おう。	自由な思いのために自分に対する責任をもとう。	何ごととも自分で判断し、決定し、実行し責任をもとう。	自主、自律、自由と責任
正直、誠実	正直であることは自分にとって気持ちがいい。	正直であることは自分の心に正直でありたいという思いがある。	正直であることは自分の生き方に対して誠実である。		
節度、節制	毎日を気持ちよく過ごすために規則正しい生活が大切。	自分の力を十分に出すためによく考えて生活しよう。	心と体の健康のために、自分の生活は自分でべろう。	望ましい生活習慣を身に付け、調和のある生活しよう。	節度、節制
個性の伸長	自分のよいところを知ろう。	自分のよいところをのばそう。	短所を改め、長所を伸ばそう。	自分のよさを見つめ個性を伸ばしていこう。	向上心、個性の伸長
希望と勇氣、努力と強い意志	自分のやることはしっかりと。	今よりもよくなりたいという心を、大切にやろうと決めたことは最後まで。	希望と勇氣をもってくじけずに、希望と勇氣が夢に近づく力になる。	目標や希望に向かい、勇氣をもって、思い通りにならなくても努力し続ける姿勢をもとう。	希望と勇氣、意と強い意志
真理の探究			自分の生活を少しでもよりよくしていくために工夫していこう。	真実、真理を求め、新しいものを生みだそう。	真理の探究、創造

(図2：子どもから見た内容の観点)

一覧表を作成したことで、学年のつながりが分かりやすくなった。一例を挙げれば、Aの視点の「自分自身に関すること」の「正直、誠実」に関して、小学校の低学年では、広い意味でのスッキリだが、中学年では自分の中の弱い心に対してのスッキリであり、高学年では自分の生き方に対して、中学校ではそれを支える自分の誇り、プライドのように、発達段階でねらいが変わっていくことが、分かりやすくなるように作成した。(図2)

しかし、内容項目の中には難しい内容もあり、すべての内容項目について子どもにも分かる表現を考えようとしたが、難しいものもあった。十分とは言えないが、ゴールイメージを適切に設定するためには、子どもにも分かる表現でイメージしておくことが大切だということが分かった。

② 「教材を読めば分かること」

新たな気付きや納得感を児童生徒がもつには、「一読すれば分かること」や「前学年のねらい」を授業のゴールイメージとしては、楽しい授業には結びつかない。すでに知っていることや前の学年の内容から高めたいことや深めたいことが、ゴールイメージとならなければならない。あえて「教材を読めば分かること」を記入する欄を設けることで、授業のねらいがはっきりできると考えた。

③ 観点に分けたゴールイメージ

観点別のゴールイメージを記入する欄を設けることにより、具体的なゴールイメージをもちやすくする工夫をした。

【価値に対する思い】

新しい学びや納得感をもたせるためには、授業者が発達段階を踏まえた内容項目やすでに知っていることから的高まりを意識しておくことが必要である。

例えば、小学4年生の教材「心と心のあく手」では、「今まで親切とは人にやさしくすることであると思っていたが、相手の気持ちを考えるという見守る親切もあるんだ。」など、新たな気づきを児童生徒のゴールイメージとして考えてみることである。

【話し合いへの思い】

自分の考えと他の児童生徒との考えを交流させることで、「友達の考えになるほどと納得した。」「こんな考えがあると気付いた。」「友達はこんな考えなのだ。」というように、話し合いの流れができるかどうかをイメージしてみることである。また、それを見取り、評価することで児童生徒が友だちの考えに耳を傾け、いろいろな人の意見を参考にしながら自分の考えを深める対話的な学びにつながられると考えた。

【多面的・多角的への考え方】

条件や立場を変えて考えることや、別の視点から考えることをイメージする。「もし、自分ならば」「もし、～ならば」と児童生徒に考えさせたい新たな見方や考え方をイメージしてみることである。

【自分自身】

教材を通して授業で学んだことを基に、自分自身を振り返ることができるようにした。「今までの自分はどうかだったか。」「これから、～を大切にしたいな。」というように自分の振り返りや、これからの生き方への思いが出るように考えて、イメージしてみることである。

④ 話し合いを焦点化するための補助発問

話し合いが表面上のもので終わることなく、しっかりとポイントを絞り、なおかつねらいに近づくように補助発問の記載欄を作った。

ア. 条件・立場を変える。

イ. 他のエピソードから考える。

ウ. 予想される反応からさらに問う。

エ. その他

上記の点を研究班で考察し、実践での研究に入った。

(5) 授業づくりシートを使った授業実践

中学校1年

「ふれあい直売所」C 遵法精神、公德

(あらすじ)

主人公は、無人のふれあい直売所を営んでいる。妹からは、「無人直売所ではもうけにならないし、不正をする人もいるので経営が成り立たなくなる」と指摘される。

しかし、直売所を利用する親子の姿や会話から直売所を続けていこうと決意する。

主題は【社会のきまり】であり、よりよい社会の実現のために進んできまりを守ろうとする発言や記述をねらいのポイントとして授業展開を考えた。

《本授業のゴールイメージ》

【価値に対する思い】

- ・多くの人が利用してくれるとうれしい。
- ・よりよい社会の実現のため、思いやりの心は大事。

【自分自身】

- ・これまでは、お金を入れる人もいれば入れない人もいたと思っていた。
- ・これからは心と心のふれあいが信頼関係を深めると思う。

【多面的・多角的への考え方】

- ・もし、自分が「私」の立場だったら、妹に言われたら販売をやめるかもしれない。

【話し合いへの思い】

- ・〇〇さんの言ったことになるほど思った。
- ・〇〇さんの意見を聞いて、自分とは考え方が違うと感じた。

中心発問は「私のもやもやした気持ちが一気に晴れたのはどうしてだろう」と設定し、この発問をさらに深めるための補助発問を考えた。

授業づくりシートの完成には多少の時間はかかったが、ゴールイメージをはっきりさせることができた。実際の授業では、授業形態も工夫し、生徒の座席を『コの字型』で実施した。これは、発表者の表情がよくわかる隣同士で意見を言い合いやすい、全員が発表者に注目することができるという利点を生かすためである。授業者は、できるだけ発言の量を減らすことを意識し、その分、生徒たちの意見をたくさん求める形をとった。中心発問までにおさえておく人間関係や出来事・初発の思いはできるだけ短い時間で確認した。補助発問は適

宜生徒たちに投げかけることで、様々な思いや考えを引き出す手だてとなった。まさに、中心発問を深く考えさせるための発問である。その中で、特に生徒たちが興味を示したのは「監視カメラをなぜつけていないのか」という発問であった。「監視カメラをつけることによって、勝手に野菜をとっていくことの抑止力にもなる」「お金をきちんと入れて持って帰っているかどうかの確認にもなる」という意見が出た。さらに、「私」の立場や思いは、授業中に確認していたので、設置していない理由や逆に設置しない方がいいのではというように意見が広がった。その中で印象に残った発言は、「無人販売所だからこそ、思いやりや感謝の気持ちをもってきまりを守らないといけない。」「監視カメラをつけるのは可能だが、つけたとしたら気軽に立ち寄れなくなる。」「信頼関係も薄れる。」である。ゴールイメージ「価値への思い」に迫る発言でもあり、活発な意見交流の場にもなった。中心発問にも時間をかけることができ、授業づくりシートを活用することで、授業者

道徳授業づくりシート

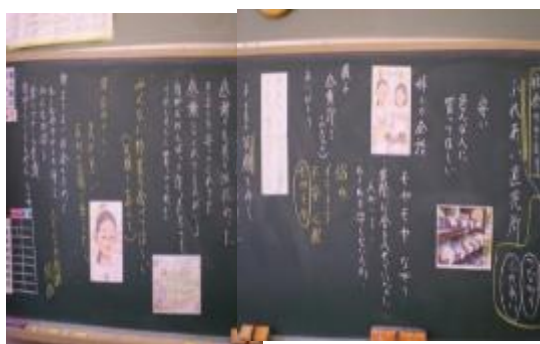
①教科名 ふれあい直売所 ②道徳的スキル or 価値観 信頼関係と誠意 ③主題・学習項目 12 規則の尊重 社会のきまりと道徳精神・公徳心 ④子どもから見た内容の特色 (見聞・体験) 公徳心、自他の権利を大切に、義務を果たし、規則ある社会をつくらう。 ⑤設定 (中心発問までにおさえておく人間関係、出来事等) ・主人公「私」の家は農家で、一部の野菜を無人直売所で販売している。 ・休日の会話で利用者と話しかけられないほど忙しさを訴える。 ⑥経験・生活のほのぼのすること (初発の問い) 無人直売所は、売り手と買い手の信頼関係で成り立っている。	⑦中心発問 「私」のもやもやした気持ちが一気に晴れたのはどうしてだろう。 予想される児童・生徒の反応 ・喜んで野菜を買って帰ることを分かったから。 ・おぼろけ利用して帰る人を怪しむところから。 ・直売所が成り立つのだから、他人が勝手に取ったから。 ⑧補助発問 (中心発問をさらに深めるための発問) A 条件・立場を変える 親子はどんな思いで買って受けているのか？ B 他のエピソードから考える 監視カメラをなぜつけていないのかな？ C さらに問う よりよい社会を実現していくためには、どんなことを大切にしていけばいいだろう？ D その他 ・皆がきまりを守るのはどうして？ ・直売所が成り立つためには、どんなことが大切だろう？ ・匿名の「ふれあい」の意味は？	⑨ゴールイメージ 価値への思い ・多くの人が利用してくれるとうれしい。 ・よりよい社会の実現のため、思いやりや感謝の心で大事。 自分自身 ・これまでは、お金と野菜をかわかぬ人もいたと思っていた。 ・これから、心と心でふれあいが信頼関係を築けると思う。 多面的・多角的への考え ・もし自分が「私」の立場だったら、嫌いな言われたら、販売をやめようかもしれない。 話し合いへの思い ・〇〇さんの言ったことになるほど思った。 ・〇〇さんの意見を聞いて、自分とは考え方が違うと感じた。
--	---	--

(図3：実際の授業づくりシート)

自身もぶれることなく、最後まで取り組むことができた。

授業者の振り返りとしては、「生徒たちの発表をさらに引き出す問い返しがもう少しできたのではないか。」「補助発問のタイミングをもっと考えてできたのではないか。」が挙げられた。時間配分は計画通りにはなかなかいかないが、授業の全体像をイメージして行うのと、そうでないのとでは大きな差につながる。

今回、授業づくりシートを作成し授業実践をした成果は大きかった。生徒たちの活発な発言や授業者のぶれない授業運びの一助となった。



（６）アンケートの実施と結果の分析

楽しい授業に関する定義と仮説を立て実際に授業をして検証に入った。

① 道徳の授業アンケートの実施

小・中学校の教員と児童生徒に道徳の授業に関するアンケートを実施

② 授業づくりシートを活用した授業

③ 授業後のアンケート実施

④ アンケート結果の分析と考察

⑤ 分析と考察を基に授業づくりシートの改善

一定の期間、授業づくりシートを活用した授業を行った。シート活用前と活用後に同じ質問事項のアンケートを実施し、その違いを検証し、本研究班の「楽しい道徳授業」についての仮説についての考察を行った。

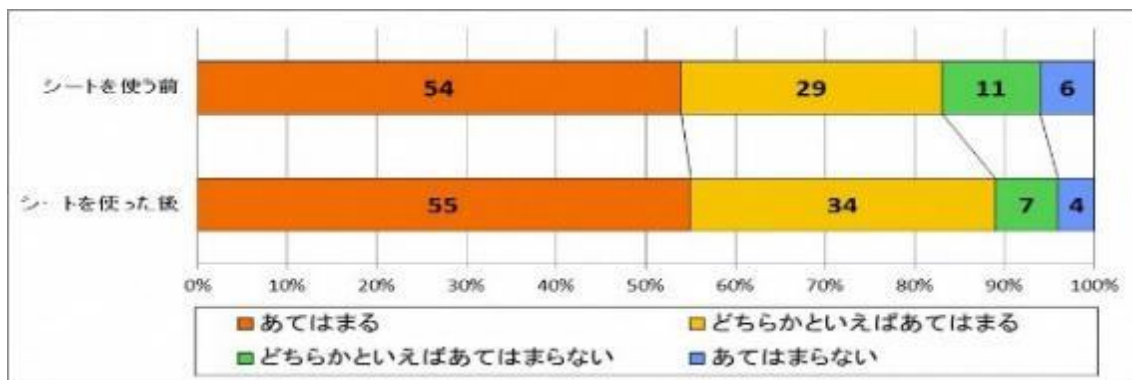
設問 1

道徳の時間は楽しいですか。

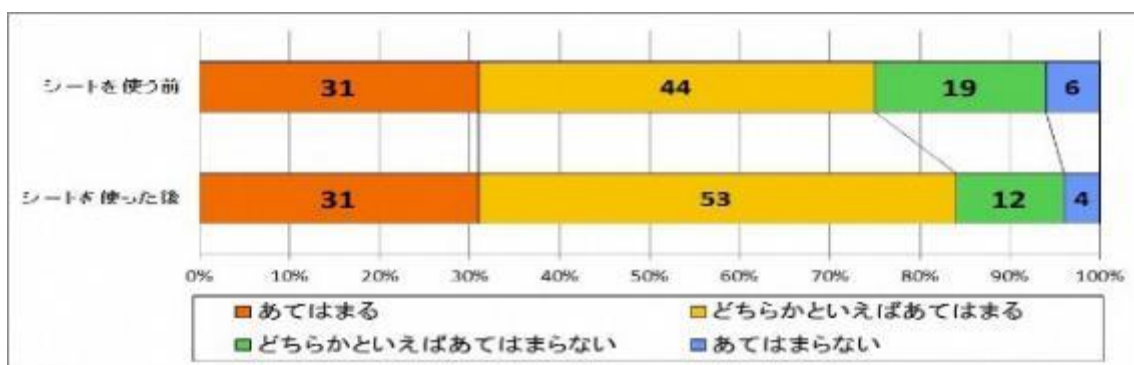
アンケート 1 項目目は「楽しい道徳の時間づくり」という本研究の主題に関わることである。

小学校では、「どちらかといえばあてはまらない」と回答していた児童が、シート活用後には「どちらかといえばあてはまる」という回答にかわっていたことが特徴である。（図 4）

「なぜ楽しいのか」という問いには、「正解がなく自分の意見を考えて言えることができる。」「自分が登場人物の気持ちになって考えられる。」「想像して考えることが楽しい。」「考えて発表できる。」「考えるのが楽しい。」等の回答があった。



(図4：結果 小学校)



(図5：結果 中学校)

小学校の低学年では、自分の考えを言える楽しさがあったが、学年が進むに従って、考える楽しさや、教材の主人公に自分を重ね主人公に託して自分の考えを言える楽しさが現れてきているようである。

中学校の結果も小学校と同様に「どちらかといえばあてはまる」と回答した生徒が増えている。(図5)

中学生への「なぜ楽しいのか」という問いについては、「心に残る話があり、興味をもてたこと」「発表や考えることが楽しい」「自分のことを考え発表する楽しさ」「普段はあまり考えないことを考え、いろんなことに気付けた楽しさ」「いつもは考えないことを考える楽しさ」等の回答があった。

学年が上がるにつれて中学生では、人間の弱さに目を向け、「そうは言ってもなかなかできないのが人間だ」という心の

あり様や自身の生き方を考える楽しさに移ってきているようである。

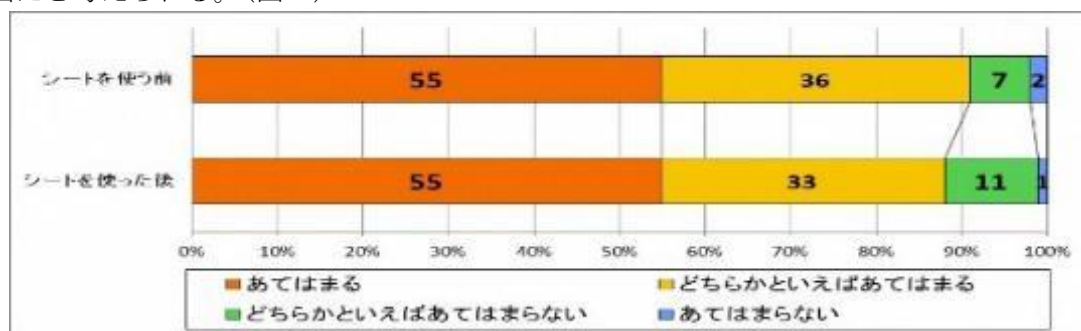
上辺だけを流すような授業ではなく、シートを使って教材を分析し、児童生徒の反応を予測し、明確なねらいの基に授業構成を考えたからこそ、楽しく感じる児童生徒が小・中学校共に増えてきているのではないだろうか。授業者が、児童生徒が深く考えることができる授業づくりシートの有効性を捉えるとともにゴールイメージから考える授業づくりがねらいにせまる楽しい授業づくりにつながると考えられる。

設問 2

「登場人物になりきって」「日常生活や学校生活を思い浮かべながら」「自分の生活を振り返りながら」「もし自分だったら」と考えたりいろいろな立場で考えたりしましたか。

次に、視点や立場を変えて考えることに関しての考察である。設問 2 からは事前、事後共に道徳の時間は楽しいと回答した児童生徒に関するアンケートの分析結果である。

小学校では「あてはまる」・「どちらかといえばあてはまる」という肯定的な回答をした児童の合計数が若干減っている。それと共に「どちらかといえばあてはまらない」と回答した児童が増えた。これは質問が長く、様々なことに対して問うているので答えにくかったことも要因だと考えられる。(図 6)



(図 6 : 結果 小学校)



(図 7 : 結果 中学校)

中学校でも、「あてはまる」の回答は減っているが、登場人物の立場に立ったり自分の生活と照らし合わせて考えたりすることが難しいときがあるという記述もあり、教材の内容によっては難しいのではないかと考察した。(図 7)

学年が上がるにつれて中学生では、主人公の行為を支えるものや、生き方に関わる内容の教材の方が道徳科の授業では楽しさを感じているようだった。

また、主人公に重ねて自身の考えや体験を述べる方が自身を語りやすい面もある。

しかし、生徒自身が自分を語るという決意表明にならないように、そしてあくまでも道徳性を養うという目標を見失わずに教師は授業を考えていかなければならない。

設問3

進んで発言したり、友達の意見をしっかりと聞いたりして話し合いができましたか。

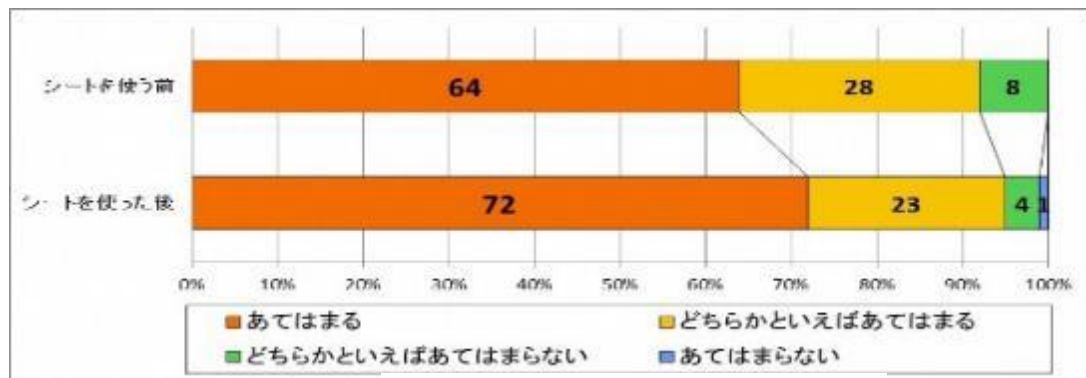
小学校は大幅に「あてはまる」・「どちらかといえばあてはまる」の肯定的な回答をした児童の合計数が増え、「どちらかといえばあてはまらない」の回答が減った。(図8)

感想には「みんなの意見が聞けて勉強になる」「みんなと一緒に考えられる」「みんなが手をあげたり人物の気持ちを考えて言ったりしているのが格好いい」と肯定的な感想が大部分だった。シートに話し合いへの思いを書くことで、話し合いの充実が図れた。授業は一人で考えるのではなく、自分と他者で考えていくこ

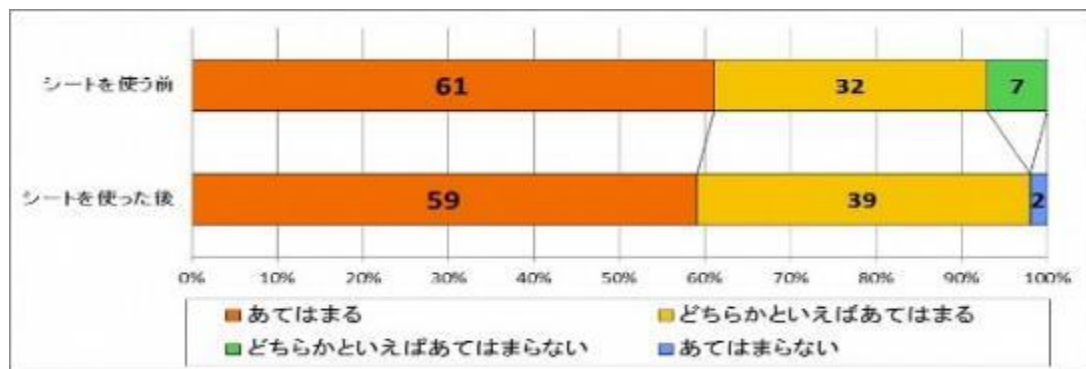
とに意義がある。だから、この項目はどの授業でも同じになるかもしれないが、しっかり記述することで授業の充実につながると考えた。

中学校でも小学校とほぼ同様の結果が現れていた。感想には「友達の意見で自分の考えが変わり、いろんな案が生まれた。」「自分が思ったことを言える場がある。」「いろんな意見を聞き、考えを深められた。」と肯定的な意見が大多数であった。(図9)

他者の意見を聴き、自分の考えをより深める。クラスで少数の意見も大事に共有できるように話し合いへの思いは大切に考えていきたいところである。



(図8：結果 小学校)



(図9：結果 中学校)

設問 4

「なるほど!」「へえ。」と新たな
気づきがありましたか。

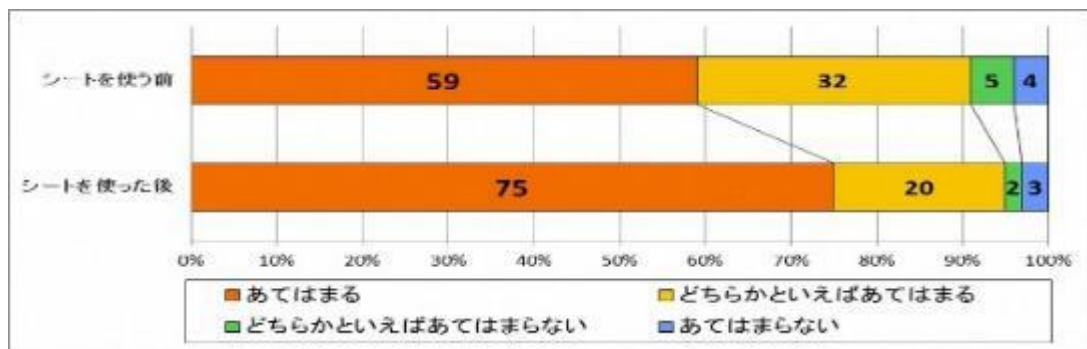
これは、本研究班が目指した「楽しい道徳の授業」で最も意識した項目である。新たな気づき、学びに関してシートを使ったことで効果は十分にあった。小学校では大幅に「あてはまる」と回答した児童が増えていた。(図10)

感想には「みんなで考えたり、劇をやったりしたから。」「へえって言ったりできた。」「正解がないから、いろんな友達の意見を聞いて楽しい。」「友達の意見を聞いてなるほどと思った。」「これから役立つし、大切なことが分かる。」「いろんなことが知れる。」という記述が多くあった。この結果から、道徳科の授業でいかにこの項目が新たな学びに導いていくかを今後も大いに考えねばならないだろう。

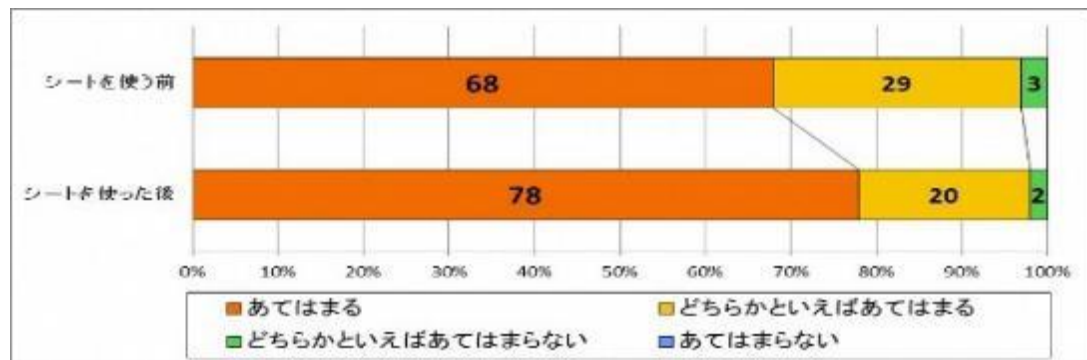
中学校も小学校と同様の結果であった。シートの効果が大きいにあったと考察した。「毎回発見がある。」「たくさん意見が聞ける。」「友達の発言を聞いて新たな気づきがあった。」「自分以外の人の話や意見を聞けて考えが変わった。」「いろんな意見が聞けて自分の思いが浮かばない。」という感想があった。(図11)

中学生では特に、新たな学び・深い学びが楽しさの根源ではないかと考察した。逆に言えば、それがない授業は楽しくない授業である。今後も授業の充実を図る必要がある。

シートを使った教師のアンケートには、「ゴールイメージが明確になり、授業がしやすい。」「中心発問までにおさえておくべきことが明確になり、あいまいだったことがはっきりした。」「時間がかからず教材研究ができる。」といった肯定的な意見もあれば、「様々な発問を考えられ



(図10 結果 小学校)



(図11 結果 中学校)

たが書くところが多い。」という改善の余地がある記述もあった。

話し合いについて児童生徒と教師との意識の差

日々の教育活動に忙殺されている教師にとって、教科書の「考えてみよう」をさらに一步深める授業展開を考えていくには、授業づくりシートは一助になったのではなかろうか。また、授業展開をしっかり考えたことで、教師も児童生徒も「楽しい道徳授業」に少しではあるが、近づきつつあることを実感している。

次に、話し合いの充実について児童生徒と教師の意識の差についての結果を載せることにする。話し合いの充実度について、児童生徒は「できた」と感じている。小・中学校共に話し合いの充実感が得られた。(図12)

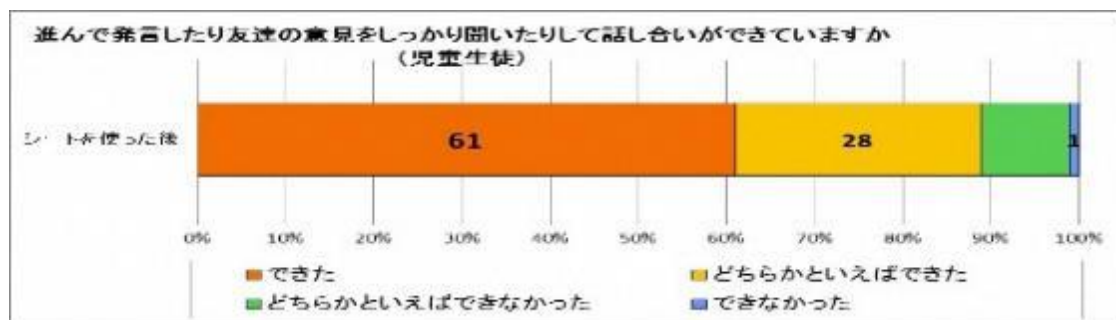
特に、中学校では話し合いにより新たな気づきや納得感が得られたことで「授業が楽しい」と答えた生徒が増えたと分析した。

一方で、教師はそれほどできていないという意識である。(図13)

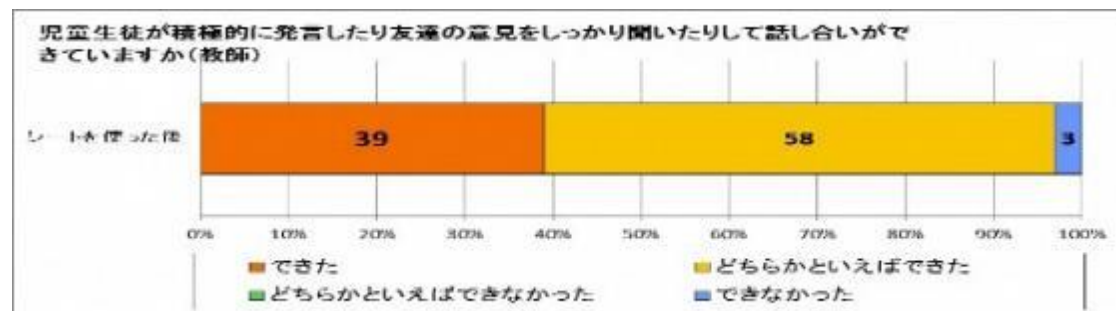
これは単純に比較できるものではないが、児童生徒と教師の求める対話の質の違いが結果に表れたのではないかと考えられる。

また、教師がただ活発に話し合うことだけではなく、より対話の質を高めていかなければならないと感じているのではないかと考えることもできる。

以上、授業づくりシートを使っの実践、アンケートの結果分析を述べてきたが、「考え、議論する道徳」という文言に惑わされることなく、グループやペアでの活動が上辺だけの話し合いにならないように、「考える内容」「明確なねらい」、「ゴールでイメージする児童生徒の



(図12 結果 児童生徒)



(図13 結果 小・中学校の教師)

一方、課題としては、以下のように考察した。

- ① 学習指導要領の観点からゴールイメージへのつながりが意識しにくく「価値への思い」が明確になっていない。
- ② 話し合いを充実させるための工夫が必要である。
- ③ 「多面的・多角的」が捉えにくい。
- ④ 中心発問に時間が取れない。

これらの課題を踏まえてシートを改善した。改善点は以下の4つである。

- ① 発達段階を踏まえた内容項目とゴールイメージへのつながりや、すでに知っていることからゴールイメージへの高まりをより意識できるよう矢印で視覚化した。
- ② 話し合いをさらに充実させるために、ペアやグループでの話し合いや、ロールプレイ等話し合いの形態を書き込めるようにした。
- ③ 【多面的・多角的への考え方】というゴールイメージをもちやすくするため、「子どもに見付けてほしい新たな見方・考え方」と書き加えた。
- ④ 時間配分を意識できるよう、時間の枠を設けた。

5 研究を振り返って

研究当初、本研究班で「楽しい道徳」とはどのようなものかと考えることがすべての出発点であった。分かりきったことを言わせる授業、こうすべきだと導く授業が道徳の授業だと認識している教師が少なくない状況の中で、教師が楽しいと感じなければ、「楽しい道徳」には結びつかないのではないか。児童生徒、教師共に楽しいとはどのような授業なのか。

研究班ではこれらについて何度も協議を重ねていった。そして、「楽しい道徳授業」とは、人間の生き方について自ら考え、自らの考えを他者と共有し、さらに深く考えていく時間ではないか。「楽しい道徳授業」とは、どういったものかをはっきりさせた時から研究は進み出したと感じている。

まず、道徳科で何を教えるのか、正解のない人間の生き方に関する教科で何を指すのかについて話し合った。低学年では教え込むこともあり、分からせなければならぬこともあるため、ねらいがはっきりした授業には内容項目の一覧表が必要ではないかという意見が出た。

しかし、発達段階に応じて何をどこまで教えるのかという内容のレベルを正しく捉えることや、子どもにも分かる言葉で表現することは困難を極めた。そこで、心のノートや学習指導要領解説を参考に、内容項目の一覧表づくりを行った。

同時に、日々の授業をより充実させるために「授業づくりシート」の作成にも取り組んだ。当初は、兵庫県の「教材分析シート」を参考にして考えた。授業づくりの際、時間をかけずに、ポイントを押さえた授業ができるようなシートになるよう、書く内容を吟味した。それを活用した授業実践を行い、アンケートによる検証とシートの改善を重ねた。

その結果、「ゴールイメージから考える授業づくり」は、児童生徒が自ら進んで考えたくなる楽しい道徳授業づくりにつながったと考えられる。

ゴールイメージからフィードバックして考える方法は、効率的であり一貫性もあり、道徳の授業に限らず、様々なところで活用できると実感した。

研究班として様々な研修会に参加し、授業参観を校種関係なくしたことも研究の一助となっている。講演会での「そうしなければならないことは子どもも大人も分かっているが、そうできないのも人間である。」という話は人間の生き方を考えていく道徳科においては大いに傾聴に値するものだと思う。

実際に授業をすることが大きな学びにつながるのは、児童生徒だけでなく教師にとっても財産となる。自校の同僚にも力を貸してもらいながら授業実践を積み重ねる中で、児童生徒の反応もさることながら、授業者自身も授業を楽しみにする気持ちが徐々に芽生えてきたように感じた。

人間の生き方を考える時間だから道徳の授業は難しい。しかし、それを避けることなく学び続けなければならない。

その際、本研究班が考えた授業づくりシートが少しでも先生方の助けになればと願うばかりである。授業づくりシートをより多くの先生方に使ってもらい、自身でカスタマイズしながら、授業づくりに生かしたり、授業づくりを共有するツールとして活用したりしてほしい。

教師同士で、お互いに難しい授業への取り組み方についてシートを中心に考え、最終的に学校全体で考えていけるようになっていけば、授業が変わり、組織が変わり、学校が変わっていくのではないだろうか。そのように、我々の活動が意義あるものになるように願っている。

本研究班の取組に協力していただいたそれぞれの学校の教職員の力添えは私達の活動の大きな支えとなった。

最後に、関西福祉大学の新川靖先生の助言は大いに参考となり、後押しをしていただいた。この場を借りて感謝申し上げたい。

6 参考文献

文部科学省

「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編」

文部科学省

「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編」

文部科学省

「心のノート 小学校 1・2 年」

文部科学省

「心のノート 小学校 3・4 年」

文部科学省

「心のノート 小学校 5・6 年」

文部科学省

「心のノート 中学校」

道徳授業づくりシート ver.2.2

①教材名	② 道徳的判断力 or 心情 or 実践意欲と態度 を育てる。 ③ 主題・内容項目 ④ 学習指導要領解説の指導の観点 or 子どもから見た内容の観点 (別紙参照) ⑤ 設定 (中心発問までに押さえておく人間関係、出来事等) ⑥ 中心発問 予想される子どもの反応 ⑦ 補助発問 (中心発問をさらに深めるための発問) ア 条件・立場を変える (ヘア・グループ・ロール) イ 他のエピソードから考える (ヘア・グループ・ロール) エ その他 (ヘア・グループ・ロール) ウ (予想される反応から) さらに問う (ヘア・グループ・ロール)			
⑧ ゴールイメージ 道徳に対する思い 自分自身 多面的・多角的への考え方 (子どもに見つけさせたい 新たな発見・考え方) 話し合いへの思い ⑨ 教材を読み終わる後 (初発の思い) 高まり				

0	15分	(中心発問20分)	35分	45(50)分
---	-----	-----------	-----	---------